

# 女子短大生における海外旅行の実態と旅行意識

安 哉 宣

## I. はじめに

近年、「若者の海外旅行離れ」が指摘されるようになった。海外出国者率が最も高かった1990年代半ばに比べて2000年代後半の若者の出国率は全体として低迷し（中村、2014）、観光活動自体に興味・関心を示さない若年層が増えている（奥山・日比野・森地、2010）。こうした若者の海外旅行離れの要因として、経済不況の悪化や若者の就職難、情報の氾濫とIT技術の進展による海外旅行への見新しさや魅力の低減、海外への無関心、他者との関わりにおける意識変化などが指摘されている（新井、2008；鎌田・金、2010）。なお、奥山・日比野・森地（2010）によると、海外旅行をする人とならない人の中には海外旅行に対する価値観に差が見られるという。また、海外旅行商品の内容も若者の海外旅行離れと深く関わっているようである。山口（2010）は、1990年代後半以降のスケルトン・ツアー<sup>1)</sup>とカタログ型ガイドブック<sup>2)</sup>による二重の定番化が旅行様式の画一化と規格化をより推し進め、若者の海外旅行に対する魅力喪失をもたらしてきたと指摘している。

以上のように、若者の海外旅行離れは、観光をめぐる新たな課題として認識されている。しかし、先行研究の多くは、若者が海外旅行に行かない要因を見出そうとしているものの、若者が海外旅行に求めているもの、すなわち旅行動機を明らかにしようとはしてこなかった。しかし、旅行動機に焦点を当てた研究も蓄積されつつある。宮田（2010）では、大学生は社会人より「知識を豊かにするため」と「自分自身を成長させるため」といった旅行動機が弱いことが明らかにされた。また、林・藤原（2008）によると、刺激性、文化見聞、現地交流、健康回復、自然体感、意外性、自己拡大の7カテゴリーに分類した旅行動機の中で若年層は「刺激性」と「意外性」の動機が強いという。これらの研究からは、海外旅行に関する意識や行動は「過去の若者」と「現在の若者」との間で異なっていることがうかがえる。この「現在」の若者については、安（2012）において日韓大学生の海外旅行意識が検討されており、日本人大学生の海外旅行動機には、「新しい経験」、「地域と文化に触れ合う」、「物や評価を得る」、「家族・友人関係」からなること、各々の旅行動機には性別、居住地、海外旅行経験によって差異が生じることが明らかにされた。筆者はこうした「現在」の若者の観光動機に着目した研究を絶えず行うことによって、「若者の海外旅行離れ」に対する処方箋を生み出すことが可能になると考える。

以上を踏まえて本稿では、女子短期大学生（以下、女子短大生）を対象とし、彼女らの海外旅行の意識および実態を明らかにすることを目的とした。本稿において女子短大生に着目した理由として、若者には年齢幅があり、他方では性別や社会的属性も様々である点を考慮したためである。また、大学生を対象とした研究の蓄積はみられるが、短期大学生を対象としたものは希薄である。

本稿の構成は以下のとおりである。Ⅱにおいて調査方法について概説し、Ⅲにおいて調査結果をもとに女子短期大学生の海外旅行の経験や旅行意識について検討する。最後にⅣにおいて得られた知見をまとめる。

## Ⅱ. 調査について

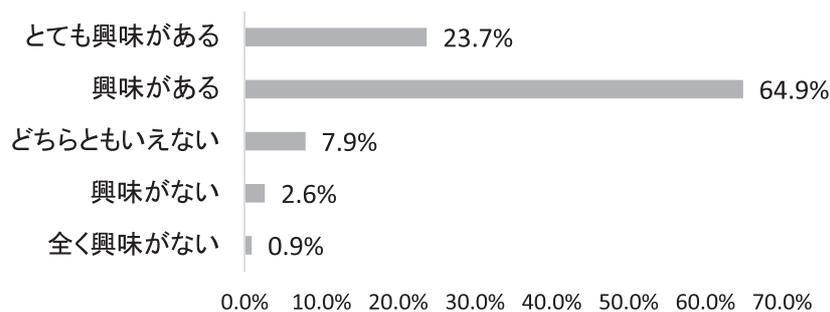
筆者は、本学短期大学の現代コミュニケーション学科の女子短大生を対象としたアンケート調査を2014年10月と2015年4月に実施した。授業中に配布したアンケート用紙に回答を記入してもらう形式とした。調査内容は、旅行経験に関する項目、旅行意向に関する項目、海外旅行に対する意識である。海外旅行意識に関しては、海外旅行において重視することと旅行先選定において重視すること、好む旅行スタイルについて把握した。アンケート調査の回答数は留学生分を除くと計114件であり、1年生が50.9%（58人）、2年生が49.1%（56人）を占めた。

## Ⅲ. 調査結果

### 1) 単純集計結果

まず、女子短大生の旅行や観光に対する興味・関心をみると、「とても興味を持っている」は23.7%、「興味を持っている」は64.9%であった。全体の88.6%が旅行や観光に興味・関心を持っていた（第1図）。

1年間の旅行回数は、「2回」が34.2%と最も多く、「1回」が23.7%、「3回」が12.3%と続いた。



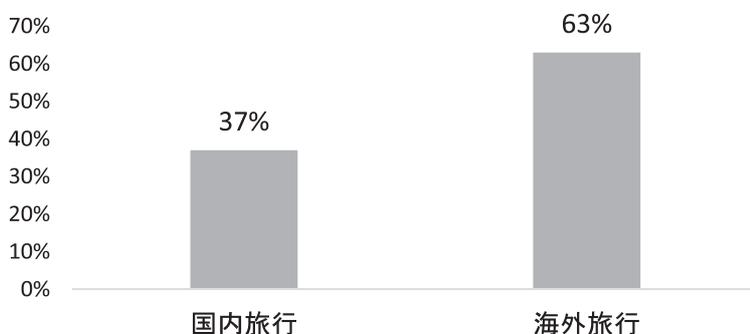
第1図 旅行及び観光に対する関心

資料：アンケート調査により作成

「5回以上」は11.5%を占めた。旅行をしない（「0回」）女子短大生は11.4%にとどまり、現在の女子短大生の旅行への関心と参加度の高さがうかがえる。また、国内旅行（37%）に比べ海外旅行（63%）の関心が高かった（第2図）。

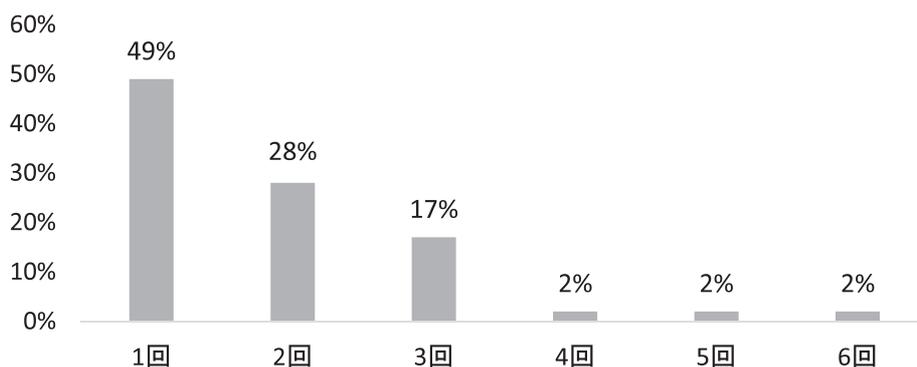
続いて、女子短大生の海外旅行の実態についてみる。海外旅行経験をみると、女子短大生の約58

%が海外旅行をした経験があった。海外旅行経験がある女子短大生の旅行回数は、「1回」が49%と最も多く、「2回」が28%、「3回」が17%と続いた。しかし、1回のみと2回以上のリピーターを比べてみると、リピーター率がやや高いことが分かる（第3図）。



第2図 興味を持つ旅行

資料：アンケート調査により作成



第3図 海外旅行経験回数

資料：アンケート調査により作成

第1表により過去の海外旅行先には、18カ所が挙げられていた。韓国が19.7%として最も多く、以下、グアム（15.2%）、オーストラリア（10.6%）、ハワイ（10.6%）、フランス（9.1%）、カナダ（7.5%）、アメリカ（7.5%）、イギリス（7.5%）と続いた。韓国やフランスを除くと、英語圏への旅行が多い。

短期大学に入学してからの海外旅行への参加率はどうか。入学後の海外旅行経験と旅行先について尋ねた結果、回答者の11%が「海外旅行に行ったことがある」と答えていた。そして、その旅行先は「韓国」、「イギリス」、「スペイン」であった。

今後の海外旅行の実施意向について第2表をみると、「是非とも行きたい」が38.5%、「行きたい」は23.6%であった。これらの方、「全く行きたくない」は10.5%であった。

第1表 海外旅行先

| 海外旅行先   | 頻度数 | 割合(%) |
|---------|-----|-------|
| 韓国      | 13  | 19.7  |
| グアム     | 10  | 15.2  |
| オーストラリア | 7   | 10.6  |
| ハワイ     | 7   | 10.6  |
| フランス    | 6   | 9.1   |
| カナダ     | 5   | 7.5   |
| アメリカ    | 5   | 7.5   |
| イギリス    | 5   | 7.5   |
| 台湾      | 4   | 6.0   |
| 中国      | 4   | 6.0   |
| タイ      | 3   | 4.5   |
| サイパン    | 2   | 3.0   |
| 香港      | 1   | 1.5   |
| パリ      | 1   | 1.5   |
| ブラジル    | 1   | 1.5   |
| スペイン    | 1   | 1.5   |
| マレーシア   | 1   | 1.5   |

資料：アンケート調査により作成

注：N76（複数回答）

第2表 海外旅行意向

| 海外旅行意向       | 人数  | 構成比(%) |
|--------------|-----|--------|
| 是非とも行きたい     | 44  | 38.5   |
| 行きたい         | 27  | 23.6   |
| どちらともいえない    | 11  | 9.6    |
| あまり行きたいと思わない | 20  | 17.5   |
| 全く行きたくない     | 12  | 10.5   |
| 合計           | 114 | 100    |

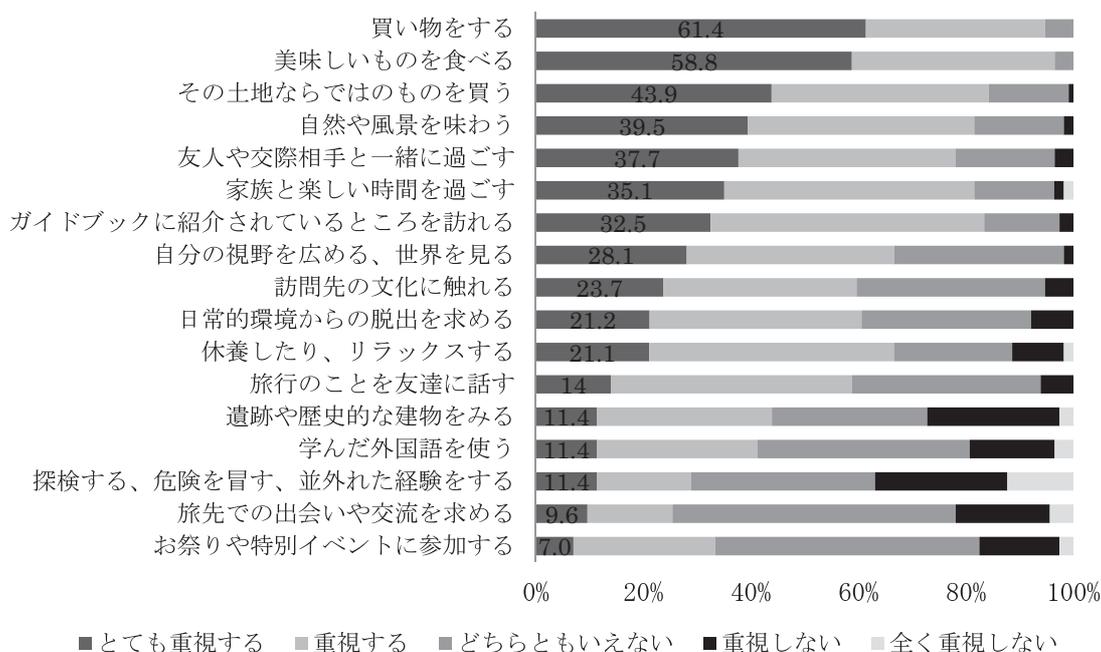
資料：アンケート調査により作成

## 2) 海外旅行の際に重視すること

女子短大生は海外旅行において何を重視しているのだろうか。

海外旅行において重視することを測定するために、Maslowの欲求段階理論や新奇性欲求に関する17問を取り上げて5段階評価（5＝とても重視する～1＝全く重視しない）を行った。その結果は第4図に示されており、海外旅行において「とても重視する」といった回答率が高かった項目は、「買い物をする（61.4%）」、「美味しいものを食べる（58.8%）」、「その土地ならではのものを買う（43.9%）」であった。「重視する」の回答まで含めると、その3項目の次に「ガイドブックで紹介されているところを訪れる」ことが重視されている。つまり、今の女子短大生は、スケルトン・ツアーの特徴として挙げられている「グルメ」や「ショッピング」を中心とする旅行を求めていることが確認された。一方、「全く重視しない」の回答率が高かった項目は、「探検する、危険を冒す、並外れた経験をする（12.3%）」、「旅先での出会いや交流を求める（4.4%）」、「学んだ外国語を使

う (3.5%)」順で高かった。「重視しない」といった回答まで含めると、「探検する、危険を冒す、並外れた経験をする」が36.9%として最も高く、その次に「遺跡や歴史的な建物をみる」が27.1%として高かった。冒険や現地の人々との交流のほか、遺跡や歴史的な建物をみることはあまり重視されていないことが分かった。



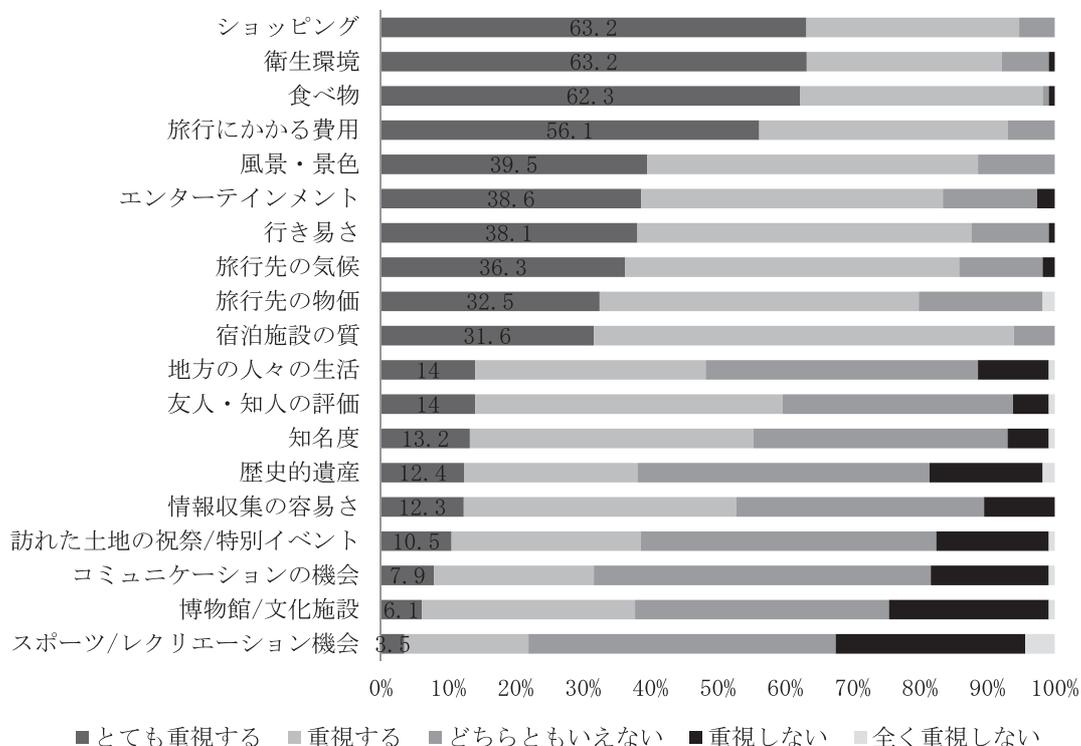
第4図 海外旅行において重視すること

資料：アンケート調査により作成

旅行先の選定において重視することもみておこう。ここでは、Echtner&Ritchie (1993) による旅行目的地の魅力形成するイメージの属性 (19項目) を取り上げ、5段階評価で検討した。その結果は第5図に示されており、旅行先選定において「とても重視する」の割合が高かったのは、「ショッピング (63.2%)」、「衛生環境 (63.2%)」、「食べ物 (62.3%)」、「旅行にかかる費用 (56.2%)」順であった。さらに、「重視する」の回答まで含めると、食べ物 (98.3%)、ショッピング (94.8%)、宿泊施設の質 (93.9%)、旅行にかかる費用 (92.9%)、衛生環境 (92.1%) が90%以上を占めていた。宿泊施設の質の場合、「とても重視する」は31.6%とそれほど高くなかったが、「重視する」が62.3%を占め、旅行先選定の際に考慮される要素になっていることが明らかになった。女子短大生は旅行先選定において、観光対象 (食べ物、ショッピング)、経済面 (費用)、滞在環境 (衛生環境、宿泊施設) などを重視しているといえよう。

また、Echtner&Ritchieは、旅行目的地の魅力形成する属性の性質が「機能的か、心理的か」という側面から分類している。機能的な属性として風景、自然、コスト、ショッピング施設、気候、歴史的遺跡などが、心理的な属性として安全、行きやすさ、異なる習慣、文化、休養、知識を得る

機会、有名、よい評判などが挙げられる。調査結果より女子短大生の場合は、実態的・具体的で直接観察できる「機能的属性」を重視しているとみられる。



第5図 旅行先選定において重視すること

資料：アンケート調査により作成

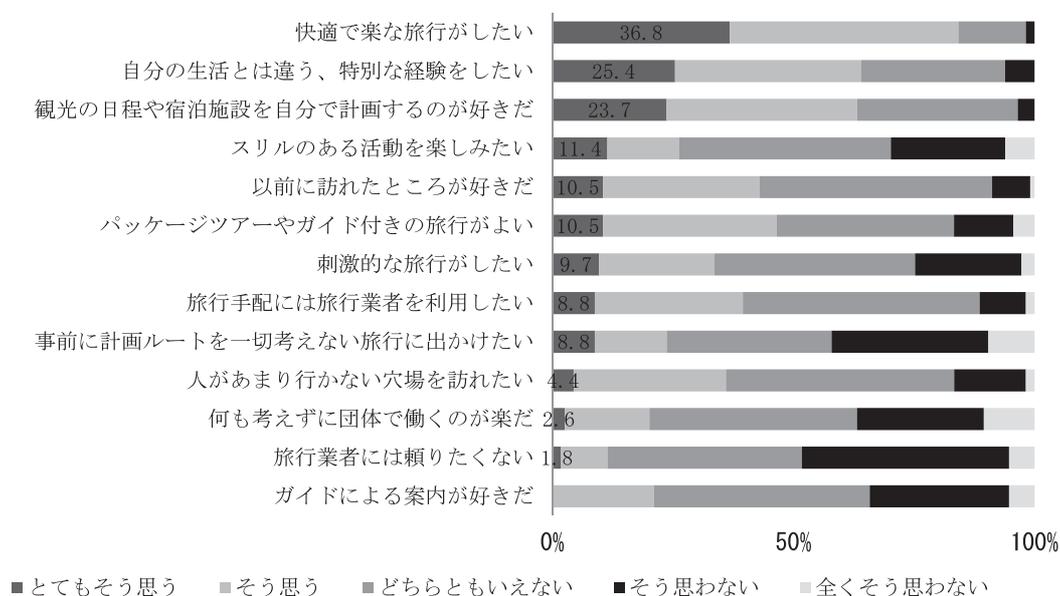
### 3) 好みの旅行スタイル

ここでは、女子短大生の好む旅行スタイルをみていく。Cohen (1972) の旅行者タイプの分類に基づき13問について、それぞれに5段階評価（5＝とてもそう思う～1＝全くそう思わない）を行った。

第6図より、女子短大生は海外旅行において「快適で楽な旅行がしたい（36.8%）」、「自分の生活とは違う、特別な経験をしたい（25.4%）」、「観光の日程や宿泊施設を自分で計画するのが好きだ（23.7%）」に対して「とてもそう思う」傾向が強くみられた。一方では、「何も考えずに団体で働くのが楽だ（10.5%）」、「事前に計画ルートを一切考えない旅行に出かけたい（9.6%）」傾向もみられた。つまり、女子短大生は日常生活とは違う経験を求めて、自ら立てた観光プランによる観光活動は好み、すべての日程が決まっている団体旅行は好んでいない。ただし、「そう思う」までを含めてみると、「パッケージツアーやガイド付きの旅行がよい」学生は46.5%となる点には注意しておく必要がある。

Cohenは、旅行者のタイプを好む旅行スタイルにより、組織化された大衆旅行者、個人的な大衆

旅行者、探求する人、放浪する人に分類している。女子短大生の場合は、ガイドによる案内や団体で行動する組織化された大衆旅行は好まないが、観光日程は自ら計画し、旅行手配は旅行者を利用したい側面があり、パッケージツアーへの選好度も高いことから、個人的な大衆旅行者の性格が強いと考えられる。



第6図 好む旅行スタイル

資料：アンケート調査により作成

#### 4) 海外旅行経験と海外旅行意識

最後に海外旅行の経験による海外旅行に対する意識についてみていこう。

まず、中村・西村・高井（2014）の海外旅行経験の有無と今後の旅行実施意向による分類に基づき、回答者を「参加者」、「希望者」、「消極派」、「否定派」の4つに区分した。第3表に示されているように「参加者」が全体の37.2%として最も多く、次に「否定派」（27.4%）、「希望派」（25.7%）、「消極派」（9.7%）と続いた。さらに、t検定を行い、海外旅行の経験有無に基づく海外旅行に対する意識の差異を分析した。その結果、海外旅行で重視することと、好む旅行スタイルにおいては有意差が認められなかった。一方、旅行先選定においては有意差が認められた（第4表）。海外旅行の経験がある女子短大生は海外旅行の経験がない女子短大生に比べて、旅行先の選定において「友人・知人の評価」、「食べ物」、「地方の人々の生活」、「旅行にかかる費用」を重視していた。さらに、海外旅行の経験のある女子短大生の海外旅行に対する意識について、旅行経験回数が1回のみと2回以上との間に差異があるのか検討した。その結果、海外旅行で重視することと旅行先選定に関しては有意差が認められなかったが、好む旅行スタイルにおいて有意差が認められた。第5表に示されているように、海外旅行の回数が1回のみよりも2回以上の女子短大生の方が「人があまり行かない穴場を訪れたい」意識が強いようである。

第3表 女子短大生の海外旅行経験と意向による区分

| 区分          | 該当者数  | 説明   |
|-------------|-------|--|
| 参加者         | 42    | 海外旅行経験がありかつ海外旅行意向を「是非とも行きたい」                           |
|             | 37.2% | 「行きたい」と回答している女子短大生                                     |
| 希望派         | 29    | 海外旅行経験はないが、海外旅行意向を「是非とも行きたい」                           |
|             | 25.7% | 「行きたい」と回答している女子短大生                                     |
| 消極派<br>経験あり | 7     | 海外旅行経験はあるが、海外旅行意向を「どちらともいえない」と回答している女子短大生              |
|             | 6.2%  |  |
| 消極派<br>経験ない | 4     | 海外旅行経験はなく、海外旅行意向を「どちらともいえない」と回答している女子短大生               |
|             | 3.5%  |  |
| 否定派<br>経験あり | 17    | 海外旅行経験はあるが、海外旅行意向を「あまり行きたいと思わない」「全く行きたくない」と回答している女子短大生 |
|             | 15.0% |  |
| 否定派<br>経験ない | 14    | 海外旅行経験がなく、海外旅行意向を「あまり行きたいと思わない」「全く行きたくない」と回答している女子短大生  |
|             | 12.4% |  |

出典：中村・西村・高井（2014、p.65）に基づいて作成

第4表 海外旅行経験の有無による差異

| 旅行先選定において重視すること | 平均値(SD)    |            | t値    | 有意度  |
|-----------------|------------|------------|-------|------|
|                 | 経験ある       | 経験ない       |       |      |
| 友人・知人の評価*       | 3.79(1.02) | 3.49(1.13) | 19.32 | 0.05 |
| 旅行先の物価          | 4.15(1.02) | 4.00(1.18) | 9.69  | 0.34 |
| 風景・景色           | 4.33(0.85) | 4.21(0.91) | 9.55  | 0.34 |
| 旅行先の気候          | 4.25(0.79) | 4.13(1.20) | 8.57  | 0.39 |
| 知名度             | 3.65(1.02) | 3.32(1.21) | 7.54  | 0.45 |
| スポーツ/レクリエーション機会 | 2.94(1.14) | 2.83(1.19) | 6.51  | 0.51 |
| 衛生環境            | 4.56(0.89) | 4.49(1.00) | 5.26  | 0.60 |
| エンターテインメント      | 4.21(0.93) | 4.15(1.18) | 4.26  | 0.67 |
| 訪れた土地の祝祭/特別イベント | 3.35(1.15) | 3.28(1.24) | 4.17  | 0.67 |
| ショッピング          | 4.59(0.72) | 4.55(0.90) | 3.31  | 0.74 |
| 宿泊施設の質          | 4.36(0.70) | 4.09(0.73) | 2.73  | 0.07 |
| 食べ物*            | 4.70(0.57) | 4.45(0.95) | 2.25  | 0.02 |
| 地方の人々の生活*       | 3.65(1.19) | 3.32(1.06) | 2.08  | 0.03 |
| 行き易さ            | 4.35(0.77) | 4.09(1.09) | 2.07  | 0.41 |
| 旅行にかかる費用*       | 4.59(0.68) | 4.34(1.02) | 2.04  | 0.04 |
| 情報収集の容易さ        | 3.52(1.06) | 3.62(1.16) | -6.38 | 0.52 |
| コミュニケーションの機会    | 3.17(1.17) | 3.28(0.99) | -7.14 | 0.47 |
| 博物館/文化施設        | 3.14(1.14) | 3.28(1.24) | -8.20 | 0.41 |
| 歴史的遺産           | 3.25(1.28) | 3.40(1.20) | -8.69 | 0.38 |

資料：アンケート調査により作成

注：\*は、5%有意である

第5表 海外旅行回数による差異

| 好む旅行スタイル             | 平均値(SD) |       | t値     | 有意度  |
|----------------------|---------|-------|--------|------|
|                      | 1回のみ    | リピーター |        |      |
| 自分で計画するのが好きだ         | 3.83    | 3.63  | 8.91   | 0.38 |
| ガイドによる案内が好きだ         | 2.96    | 2.75  | 7.97   | 0.43 |
| 何も考えずに団体で動くのが楽だ      | 2.87    | 2.71  | 6.22   | 0.54 |
| パッケージツアーやガイド付きの旅行がよい | 3.48    | 3.33  | 5.33   | 0.60 |
| 自分の生活とは違う、特別な経験をしたい  | 3.78    | 3.79  | -0.36  | 0.97 |
| 計画ルートを考えない旅行に出かけたい   | 2.83    | 2.88  | -1.50  | 0.88 |
| スリルのある生活を楽しまたい       | 3.00    | 3.08  | -2.52  | 0.80 |
| 刺激的な旅行がしたい           | 3.13    | 3.21  | -2.96  | 0.26 |
| 旅行手配には旅行者を利用したい      | 3.22    | 3.29  | -3.29  | 0.74 |
| 以前に訪れたところが好きだ        | 3.48    | 3.58  | -4.60  | 0.65 |
| 快適で楽な旅行がしたい          | 4.00    | 4.13  | -5.37  | 0.59 |
| 旅行者には頼りたくない          | 2.53    | 2.79  | -11.02 | 0.28 |
| 人があまり行かない穴場を訪れたい*    | 2.91    | 3.54  | -24.86 | 0.02 |

資料：アンケート調査により作成

注：\*は、5%有意である

#### IV. おわりに

本稿では、女子短大生における海外旅行の実態、海外旅行において重視すること、旅行先選定において重視すること、海外旅行好みの旅行スタイル、海外旅行経験と海外旅行意識についてアンケート調査結果とともに検討した。以下、得られた知見をまとめる。

- ①女子短大生は海外旅行へ関心と参加度、参加意欲が高く、海外旅行の実施状況もリピーター率が高かった。女子短大生の間ではグルメやショッピングを中心とする旅行を求める傾向が強く、旅行先選定の際にも食べ物やショッピングが最も重視されていた。また、旅行費用及び滞在環境も旅行先選定において重視される要素となっていた。
- ②海外旅行において女子短大生は、自ら観光日程を計画することは好むが、旅行手配は旅行者を利用したい側面とパッケージツアーへの選好度も高かった。このことから、個人的な大衆旅行者である性格を持っていると言える。
- ③女子短大生の間では海外旅行経験の有無や回数による旅行意識の差異はさほど見られなかった。海外旅行経験の有無によって異なるのは、旅行先選定の際に重視することであった。また、海外旅行経験者の中でも海外旅行回数によって好む旅行スタイルが異なっていた。

以上を踏まえ、若干の課題を提示して結びとしたい。まず、女子短大生の海外旅行市場を広げていくための課題として、①のような一般的なニーズへの対応のみならず、②を踏まえると、旅行者が自ら立てた計画をもとに手配が行えるように環境を整備したり支援を進めたりすることが求められていると考えられる。また、③より、海外旅行経験が海外旅行スタイルの好みに変化を与えていることがうかがえるため、今後の研究課題としてその変化プロセスを時代背景も踏まえつつ丹念に追う必要がある。

【付記】

本研究は、「2013年度静岡英和学院大学及び静岡英和学院大学短期大学部の共同研究」による研究成果の一部を報告したものである。

【注】

- 1) スケルトン・ツアとは、航空券と宿泊先だけの事前手配、添乗員なしのフリープラン、3泊前後の短期商品、個人で手配するよりも安価の特徴を持つツアーである（山口、2010）
- 2) カタログ型ガイドブックとは、文字より写真を中心とした編集で、名所旧跡よりもグルメやショッピングなどの定番情報を紹介したものである（山口、2010）

【参考文献】

- (1) 奥山忠裕・日比野直彦・森地茂（2010）：第101回運輸政策コロキウム 若年層の観光活動の減少要因に関する研究、運輸政策研究、13(3)、17-84
- (2) 中村哲・西村幸子・高井典子（2014）：「若者の海外旅行離れ」を読み解く、法律文化社
- (3) 新井秀之（2008）：日本の若者における「海外旅行離れ」の背景の分析と対応に関する一考察、第14回観光に関する研究論文入選論文集、49-90
- (4) 鎌田裕美・金春姫（2010）：日本の若者はなぜ海外旅行をしないのかー消費者行動モデルによる考察ー、第40回消費者行動研究コンファレンス要旨集、44-48
- (5) 山口誠（2010）：「若者と観光」のメディア史ー前後日本における海外観光旅行の変遷を問うー、第25回日本観光研究学会全国大会学術論文集、13-16
- (6) 林幸史・藤原武弘（2008）：訪問地域、旅行形態、年齢別にみた日本人海外旅行者の観光動機、実験社会心理学研究、48(1)、17-31
- (7) 宮田沙幸（2010）：旅行による自己成長の研究ー大学生と社会人の比較ー総合政策研究、12-2、81-96
- (8) 安哉宣（2012）：日韓大学生の海外旅行意識に関する比較研究、観光研究、24(1)、69-79
- (9) Echtner、C.M.、&Ritchie、J.R.B（1993）：The measurement of destination image:An empirical assessment、Journal of Travel Research、32(1)、3-13
- (10) Cohen、E.(1972)：Toward a sociology of international tourism、Social Research、39、164-182